

2009年11月



この悲惨さを多くの人に伝えねば・・・びわ湖トラスト理事 本部長 小川 隆

漁船が初冬の冷たい風を切って勢いよく尾上の港を出ると目の前に葛籠尾崎その左手に竹生島の影が見える。奥琵琶湖のこの美しい風景は古来歌や詩に読まれて来た。そして岬が湖に落ち込む辺りには縄文・弥生時代の遺跡が今も眠っており、引き上げられた数々の壺や皿は3千余年を経て、尾上の湖底遺跡資料館に陳列されている。

その日、6隻の船に乗って葛籠尾崎へゴミの回収に向かったのは120余名。OBC高島の野球選手達や滋賀大学、県立大学等の学生さん、びわ湖トラストのメンバー、地元の漁師さんや湖北町日赤奉仕団の方々も応援に駆けつけてくれた。

湖岸に漂着した大型ゴミ。渚に点々と続くのは冷蔵庫、食器乾燥機、掃除機、炊飯器にパソコン、バッテリーにタイヤの数々、こども用カート、ビニールシート。タイヤに羽が生えて飛んで来たのでは無い。冷蔵庫が家を抜け出しここまで来ない。3時間足らずで回収したゴミの総量は2784kg。悲惨であった。たばこや空き缶のポイ捨てが、この現状の始まりだと思う。私達は声を大きくしてこの有様を多くの人々へ県内県外の人々へ伝えなければならない。そして、びわ湖トラストの大切な活動として、回収運動を継続していきたい。「悲惨な湖底遺跡」を残さないために。



びわ湖を守りつなぐことを誓う・・・ 湖北町長 南部厚志

9月から10月には、オオヒシクイやコハクチョウを中心に多くの水鳥が飛来するびわ湖。今年も沢山の鳥たちが来てくれました。鳥たちが好む環境を一年間守れたんだと感じ、ほっとする季節であります。びわ湖の中でも、最も美しいところをお預かりしているのが、湖北町です。私たちの大切な役割のひとつが、美しいびわ湖を未来につないでいく事だと思っています。しかし、湖岸を歩くと目に付くのは、明らかに不法投棄された大型ゴミや、ポイ捨てされたゴミ、川を流れてたどり着いたと思われるゴミ、たばこの吸い殻、ゴミ、ゴミ・・・

人の心が社会を動かす時代だと思います。つづらお崎のゴミ回収に参加して、びわ湖を見つめる人々の心に触れる事が出来ました。ご参加いただきましたみなさん、びわ湖トラストの関係者のみなさん、ご協力をいただきましたみなさんに心から感謝申し上げます。そして、改めてびわ湖を守りつないでいく誓いとしてしたいと思います。



2009年9月

びわ湖トラスト・湖底ゴミ調査

「守山・野洲湖岸」漁師さん協力

びわ湖の湖底ゴミ、家電や自転車やタイヤなどがたくさんあるといわれています。それを底引き網で上げられないか、どこに集中しているのか、調査を開始しました。

野洲川から流れてくるゴミ、湖周道路捨てられるゴミ等々、また湖岸の形状が溜まりやすい場所と、漁師さんから情報を得て、5月16日湖底ゴミの撮影調査を実施しました。

5月は、田んぼの代掻きの濁水が収まっていなかったため、視界20cmくらい。びわ湖の濁りは湖面全体にわたり、守山と堅田の間あたりも撮影はできず、濁水のすざましさを感しました。水が澄んできた7月14日に再調査を行ないました。たくさんの空き缶やルーア、大型テント、石膏ボード等の建築材料などがありました。

びわ湖の湖底ゴミは、引き上げた者が自己責任で産業廃棄物として処理するのがルールと知りました。引き上げた後、責任があります。そのためにも、できるだけ撮影してから、多くの方々に相談して推進していきますので、ご協力お願いします。



